



2025年12月

# クリスマス＆新年 あめでとうございします

Dear collaborators and friends,

昨年の今頃、皆さんに送ったメッセージには、今年が最も苦しんでいる人々にとって、もっと人間にふさわしい生活ができるような年になるための祈り、そして強い希望を伝えたと思います。しかし残念ながら、世界のあるところで戦争が続き、別のところで新しく戦争や紛争が起り、多くの人々の命が奪われています。また、いろんなところで、難民や移民となっていた人々を追い出そうとしています。環境の悪化がますます明らかになっているにもかかわらず、それを否定し続けている権力者もいますし、福島の原発事故からまだ 15 年も経っていないのに、あの時の人々の苦しみと不安を「他人事」にして、別の原発を再稼働させようとしています。「強い国」とは何でしょうか。まだ、私たちの身近なところにも苦しんでいる貧しい人、差別されている人、仕事のない人がたくさんいますが、この辺でストップします。

このような状況ですから、今こそ、クリスマスのメッセージである、「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。... 神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるためである。」(ヨハネによる福音、3,17-18)ということをもう一度思い出して、悲観的にならず、平和、正義、連帯などの世界への希望を新たにし、その世界を実現するために、自分にできることをしていく決意を一層強くしたいと思います。

その希望は単なる夢ではないことを、今年も、「かんぼれん（カンボジアの友と連帯する会）」のメンバーと一緒にカンボジアを訪れた時に改めて、強く感じることができました。イエズス会サービスカンボジアのスタッフ、イエズス会員やともに活動している多くの人々との協働、最も貧しい人々への彼らの献身、障がい者とそうでない人々との助け合いなどを自分の目で見て、希望は欺くことがない、夢ではない、と再確認できました。

この希望の実現に協力しているのは、かんぽれんの協力会員や寄付してくださる皆さん的一人ひとりです。これからも宜しくお願ひいたします。

世界でどんな問題が起こっても、自分の身近に辛いことがあっても、クリスマスのお祝いをしながら、来る2026年も、皆さんと皆さんのご家族が希望に支え続けられるように、心からお祈りいたします。皆さんも私のためにお祈りください。

*Dicente Bond*